

2010.3.26 「民主党内閣の問題点が次々露呈」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今日、参議院の本会議で民主党の提案した「子ども手当」の法案が成立してしまいました。この子ども手当の問題点につきましては、以前ビデオレターでもお話しいたしました。結局この法案は子どもへの究極の借金付けまわし、日本人の子どもに手当が出されずに外国人の子どもに渡ってしまうなど、制度上も多くの矛盾点があるにもかかわらず、残念ながら数の前に止めることができませんでした。

しかし、この子ども手当を今年はとりあえず出したとしても来年度以降の財源はどうするのか、その後も継続して子ども手当を出し続けると、国家の財政は立ちどころに崩壊してしまいます。この事だけは皆様方に是非ご理解をいただきたいと思います。

最近、民主党の問題点が様々なところで出てきております。中井国家公安委員長の女性問題、彼の危機意識のなさに私自身開いた口が塞がりません。それから、亀井大臣の郵政の改革案も民主党や内閣の中で議論さえしていなかったことが明らかになりました。つまり、民主党政権は選挙で反自民ということをしを旗頭にして政権を取ったけれども、結局は、政権を創るための基本的な理念、政策の整合性、そして自らが言った政策の財源も一切考えてこないまま内閣を成立させたということです。まさに、子ども内閣ということをやめて露呈したわけです。

この民主党の内閣を壊していくためには、これらの問題点をもっと国民に知っていただかなければなりません。ひとつは政策の中身が最悪であるということです。自由や友愛など、戦後の価値観を非常に声高に彼らは掲げていますが、結局は自分達の世代さえよければ良い、自分達の立場さえ良ければいいという究極の利己主義であり、それが様々な政策の中に出てきています。もっと言えば、美辞麗句だけを並べているだけで、お互いが支え合い、権利を抑制しながら他者のことを考え、つきあっていくという当たり前の社会の仕組みが、彼らの政策の中には一切無いということです。

その典型が、民主党内閣になってから様々な不祥事が出てきておりますが、どの問題に対しても彼らは一切責任を取っていないということに現れています。野党の時に民主党は、我々自民党の政権に対する追及を散々してきましたけれども、一旦政権を取ってしまうと自分達の犯した問題にはお互い口を噤みあい、知らぬ存ぜぬを貫くのです。ダブルスタンダード、又は二枚舌と申しましょうか、ここまでいい加減な対応をされると、言葉もない程です。これでは、国民

の政治に対する不信感は益々強くなるばかりでしょう。問題が山積であるにもかかわらず、予算も子ども手当法案も通りました。これからは、大きな問題点である、民主党の労働組合との癒着の実態など、民主党の正体は何であるのかということを、どんどん国会の中で暴き出していきたいと思っております。

今後とも皆様方の御支援宜しく申し上げます。ありがとうございました。